双葉葉通信【第６９回】“ふくしまの切捨ては許さない”　190201

上　田　　勉

チェルノヴィリへ　行って見て考えた

年末年始、チェルノヴィリへ行ってきました。HIS の格安航空券で、トルコのターキッシュ航空でした。途中（飛んで）イスタンブールまで約 12 時間、そこで乗り換えて、ウクライナのキエフまで約 2 時間です。キエフの冬の気温は 0℃以下ですが、思ったほど寒くはありませんでした。ウクライナは穀倉地帯、西部と中部は親西欧、東部は親ロシアです。ロシアのクリミア半島の占領によって、情勢は緊迫していましたが、キエフでは市民が普通の生活をしていました。

翌日はキエフにあるチェルノヴィリ博物館へ行きました。外には救助にあたった消防車やトラックが並んでいました。館内には、亡くなった消防士や甲状腺がんになった子供たちの写真がたくさん壁に掲示されていました。チェルノヴィリ事故は、政府の指示で公表されませんでした。北欧で高い放射線量が観測されて、原発事故が明らかになりました。市民にも原発事故について知らされませんでした。救助や消火作業にあたって被爆した作業員や消防士の人達が、何年後かに亡くなりました。これらの人達は、英雄として讃えられました。また、被爆した子供達は、甲状腺がんになりました。

チェルノヴィリはキエフの北にあって、車で片道約 3 時間です。2 日間共に、日帰りのツアーに参加しました。日本で日本語で、ツアーの申込みができました。費用は 1 日約 1 万円です。添乗員の会話は英語です。ソ連政府は、チェルノヴィリ原発の周囲を、永久的に立入禁止区域にしました。その結果、建物は 32 年経ってもそのままの形で残っています。老朽化した建物にも、注意がいりますが、中に立ち入ることができます。住宅団地・スーパーマーケット・商店・工場・体育館・学校・保育園・遊園地などを見学しました。保育園（キンダーガーデン）では、ベッドや人形や絵本等がそのままの形で残っていました。園児たちは、甲状腺がんになったかも知れません。

事故を起こした原発は、アーチ型のコンクリートの石棺で固められていました。直ぐ傍まで行くことができます。放射線量は高いところでは、9 ミリシーベルトを超えていました（基準値 0.23 ミリシーベルトの役 40 倍）。ツアーの案内は、アナスタシアと言う美人の女性でした。会話は英語です。日本人の私にも、気を配ってくれました。しかし、若い女性が、放射線量の高い所で仕事をして、健康は大丈夫なのか？日本では、防護服の着用が義務付けられると思います。

チェルノヴィリで、原発事故の復旧について考えました。周囲は永久に立入禁止にして、原発は石棺にしました。一方、福島第一原発事故では、廃炉にするために 30～40 年かかります。8 年経った今でも、まだ燃料デブリの取り出しの見通しが立っていません。街は元通りに復旧しますが、アンケートで、「帰ってくる」と答えた大熊町と双葉町の住民は、約 1 割強です。福島でも、チェルノヴィリの復旧の方法もありかな、と思いました。（大熊町と双葉町の町民の方たちには申し訳ありませんが）

【石棺のチェルノヴィリ原発（背後）を説明するアナスタシアさん】

【保育園も事故当時のまま一甲状腺がんになった園児もいたかも】

チェルノブイリ原子力発電所事故 1986 年 4 月 26 日 1 時 23 分にソビエト連邦（現：ウクライナ）のチェルノブイリ原子力発電所 4 号炉で起きた原子力事故。後に決められた国際原子力事象評価尺度 (INES) において最悪のレベル 7（深刻な事故）に分類され、世界で最悪の原子力発電所事故の一つ（Wikipedia）